

1 単元 まちたんけん ～久原のすてきを見つけよう～

2 指導の構想

【何ができるようになるか】(単元の目標)

「自分を高める」

- ・探検の計画に沿って、地域の人に取材したりメモしたりして最後まで活動に取り組むことができる。(やり抜く力)

「人とよりよく関わる」

- ・お世話になった地域の方に、見学させてもらったことに対する感謝の気持ちを手紙などで伝えることができる。(他者意識)

【何を学ぶか】(教材の価値)

本単元は、「久原のすてき」を探しに町探検に行く活動を通して、自分たちの生活は多くの人に支えられていることや地域の人々が地域に寄せる思いに触れ、自分たちが生活している地域の人や場所へ愛着を深めることをねらいとしている。また、自分たちの生活を支えてくれている人々に感謝の気持ちを持ち、自分たちができることを実践したり、地域で安全に楽しく生活したりする態度を育てることもねらいとする。探検の行き先の決定、準備を自分たちで考えながら粘り強く行うことで「自分を高める」力を身につけたり、地域の方にインタビューをし、調べたことを友だちと交流することで「人とよりよく関わる」方法を身に付けたりすることができる意味で、大変意義深い。

【どのようにして学ぶか】

生活科の単元の流れ [単元計画 (15時間)]

(1) 目標をもつ (1時間)

まず、1学期に行った町探検を振り返り、久原には多くの自然や店などがあることを想起し、久原のよさをもっと知りたいという気持ちをふくらませる。2学期は、町で生活したり働いたりしている人に目を向けて、「久原のすてき発表会をしよう」という目標をもつ。

(2) 実践する (11時間)

次に、目標を達成するために、自分たちで探検計画を立てる。そうした中で、計画通りにいかない場合でも繰り返し挑戦しながら、粘り強くやり抜く力が身に付いていく。また、地域の方にインタビューをする中で、自分とのつながりや地域の方の思いに気づき、他者理解へとつながっていく。

(3) 振り返る (3時間) 【本時含む】

最後に、「久原のすてき発表会」を行う。町で生活したり働いたりしている人の共通点を見つけ、自分の生活と結び付けながら、感謝の気持ちを持ち安全に楽しく生活するなど自分の生活に生かしていく。

【実施するためには何が必要か】(人・もの・こと)

- ・インタビューや探検先で協力してくださる地域の方、お店
- ・久山の自然や行事

【道徳との関連】

- ・B-(7)感謝「はたけの先生」

【児童の実態】

本学級の児童は、1学期「春の町を歩こう」や「どきどきわくわく町たんけん」の学習で久原の町を歩いている。その際、多くの植物や生き物、店を発見し交流することができた。生活圏が自分の家の近所の児童も多いため、新たな発見がたくさんあり子どもたちは意欲的に取り組むことができた。もっと他の場所も見てみたいと思う児童も多くいた。一方で、日々の学校生活の中で、うまくいかないことがあると投げ出してしまったり、ルールを守って生活したりできないことが課題としてあげられる。また、挨拶運動の参加率が低かったり読み聞かせのボランティアの方に自分から進んで挨拶ができなかったりする児童も多くいる。それは、自分たちと地域の方との生活の関わりや地域の方の思いに気づいていないからだと考える。

3 本時

(1) 目 標

- 「久原のすてき発表会」を通して久原のよさを見つけ、自分たちの生活との関わりや、久原の人の思いに気づくことができる。

(2) 準 備

- ①「久原すてきマップ」 ②学習プリント ③各グループの発表物 ④タブレット ⑤モニター

(3) 展 開

過程	学習活動・児童の反応	指導の手立て(○)と評価(◇)
導 入 5 分	1 前時学習を振り返り、本時学習のめあてをもつ。 (めあて) 久原のすてき発表会をして、久原のすごいところやよいところをたくさん見つけよう。	○ 前時までに完成したマップを提示し、もっと「久原すてきマップ」を広げようと意欲的に取り組めるようにする。
展 開 30 分	2 「久原のすてき発表会」を行い、交流する。 (1) 町探検に行き調べたことを発表する。 問題です。ここはどこでしょう。 ここは久山植木です。一日に何人の人が来るとおもいますか? ①100人 ②800人 ③1000人 正解は③の1000人です。久芳さんは一日に何千種類もの植物の世話をしています。大変なのにすごいと思いました。お客さんの笑顔を見るために頑張っているそうです。 器楽庵の北村さんは何かを作ることが、昔から好きでした。 校長室にある大きな花瓶は、北村さんが約20年前に作ったそうです。 器楽庵には大きな釜があります。1240度の高い温度で、焼き上げます。 (2) 気づいたことや思ったことを発表する。 ・久山植木の久芳さんはお客さんのために一生懸命働いていることがわかった。私が調べた實測さんもお客さんを喜ばせようとしているところが同じです。(思い) ・北村さんが陶芸クラブで学校にわざわざ来てくださっていることを初めて知った。陶芸を試してみたくなりました。(自分たちとの関わり) ・ぼくが調べた地域は田んぼがありました。色々な生き物がいるところがいいと思います。(自分たちとの関わり)	○ 発表を聞いている子どもたちが発表会の中で気づきを深め様々な感想をもつことができるよう、クイズ形式や紙芝居など発表形態を工夫する。 ○ 地域の方が地域に寄せる思いに迫ることができるようにするために、見たことや聞いたことだけではなく、感想まで発表させる。 ○ 地域の様々な人や場所との関わりに気づくことができるよう、「地域の方の思い」と「自分たちとの関わり」など色分けをして「久原すてきマップ」に書き込む。
終 末 10 分	3 本時の振り返りを行い、発表する。 ・田んぼにはたくさんの生き物がいることは当たり前だと思っていたけど、久原は自然が豊かだと分かりました。 ・クラブの先生をしてくれたり交通指導をしてくれたり、久原には優しい人がたくさんいて素敵だと思います。 ・僕たちが久原で安全に楽しく過ごせるのは地域の方のおかげだと分かりました。ありがとうございます。	○ 地域への親しみや愛着を一層強くもつことができるように、これからどのように生活するかを考えさせる。 ◇ 自分たちの気づきをこれからの生活につなげて振り返っているか。(学習プリント分析)